

ホルミシスマット使用による生体抗酸化力向上とストレス低減効果を唾液で判定する方法

遠赤外線応用研究会 専務理事
江川 芳信



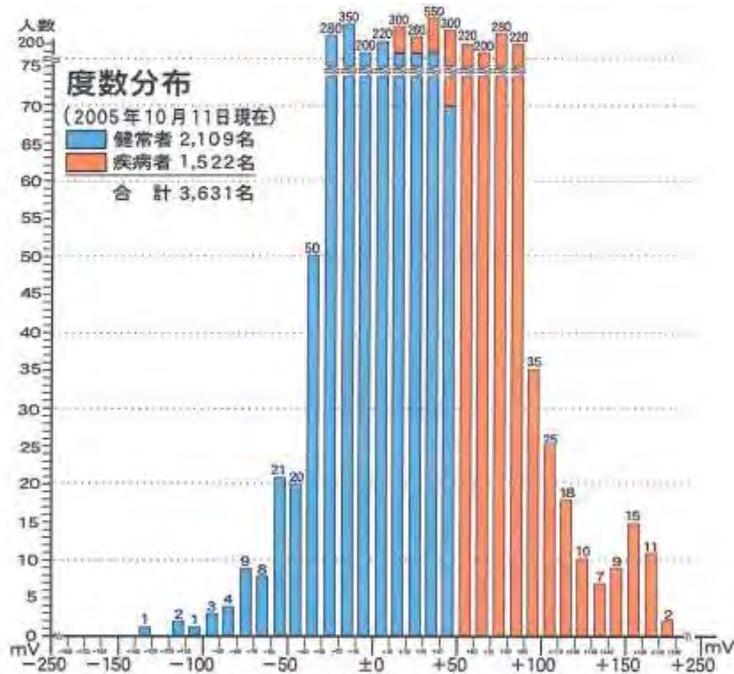
1. だ液で人体の酸化還元レベルが分かる

活性酸素によって、あるいはその他の要因で、体内が酸化状態になると、さまざまな病気を誘発します。そして体内が酸化状態になると、当然だ液も酸化状態になることが「だ液臨床」を重ねることで確認できています。

従って、だ液の ORP (市販の測定器) を測定することで人体の酸化還元レベルが分かり、人の健康管理ができます。また、酸化状態の人はホルミシスマットの使用で改善されることは学術報告書にあります。

「だ液」にみる健常者と疾病者の ORP

健常者 2,109 名、疾病者 1,522 名、合計 3,631 名



2. 酸化タイプの人には活性酸素消去能に影響

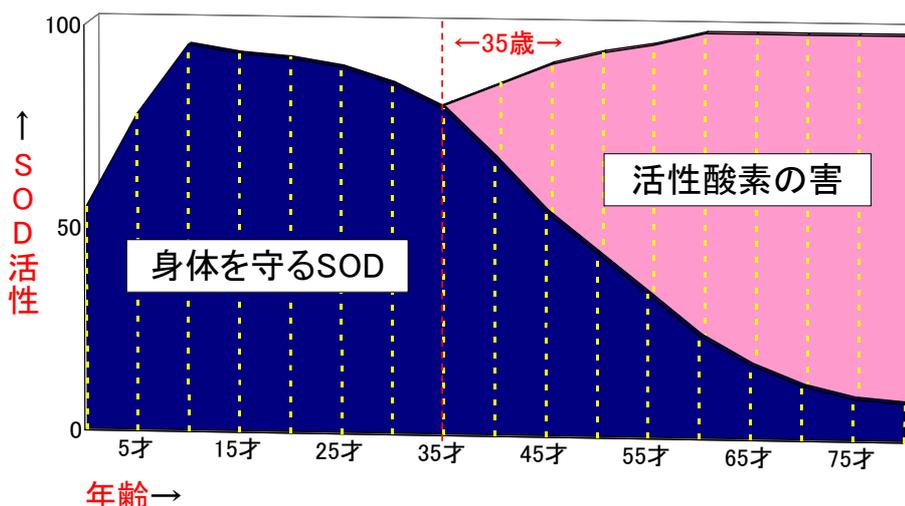
活性酸素で体内が酸化状態になった人はホルミシスマットの使用によって中和され、還元タイプに移行することは容易に理解できます。だ液測定で還元性を示した人は、それだけ活性酸素消去能が高いと言えます。

このように、酸化タイプの人にはホルミシスマットなどの使用で活性酸素消去能を高める必要があります。

「唾液」で体内の体調度			
酸化還元電位値	体調度	色彩表示	酸化と還元の状態
+160 mV	超酸化	酸化	酸化力が非常に強い
+100	酸化		酸化力がやや強い
+50	還元境界		酸化力が弱い
+40			還元力が弱い
+30			還元力がやや強い
±0	還元	還元	還元力が強い
-30			還元力が強い
-40			還元力が強い
-50	良還元		還元力が強い
-100	超還元		還元力が非常に強い
-160 mV			

※参考文献・三五館「唾液はなんでも知っている」より

活性酸素とSODの加齢による対比！



■ SODの年齢による影響

体内のSODの力は35歳を過ぎる頃から急激に落ちる為、その年齢の頃より活性酸素の害で発生する生活習慣病、ガンを始め各種の疾患、シミ、シワ等の皮膚障害が増えてきます。

試験結果報告書

No.213S-618

平成 25 年 9 月 5 日

イオン情報センター 殿

遠赤外線応用研究会
大阪市中央区南船場 4-9-11
TE06-6251-7619

試験項目 ホルミシスマットを使用することで、生体抗酸化力向上変化を確認するため、使用前を対照として比較検証する。

試料 ホルミシスマット

試験条件 1) 試験日時 平成 25 年 9 月 4 日
2) 測定環境 室温 22℃ 湿度 58%
3) 測定機器 (株)リブランドラブ社製 唾液酸化還元測定器

試験方法 女性モデル (54 才) を被験者とし、ホルミシスマット使用前の生体の酸化還元電位を唾液により測定した。
次に、ホルミシスマットを 10 日間使用後の酸化還元電位を同様に測定した。

試験結果

ホルミシスマット使用による生体抗酸化測定値 (mV)

	使用前	使用 10 日後	低減値
ホルミシスマット	110	77	33

考察 ホルミシスマットを 10 日間使用することで、生体の健康度を示す酸化還元電位が 33 低減した。

この要因が個人差によるものかどうかは分からないが、少なくともホルミシスマットを 10 日間使用した場合、生体の健康目安の一つである抗酸化力が高まることが示唆された。

なお、測定は各 5 回ずつ実施し、その平均値とした。

3. だ液でストレスレベルが分かる



だ液アミラーゼモニター

試験結果報告書

No.213S-618

平成 25 年 9 月 5 日

イオン情報センター 殿

遠赤外線応用研究会
大阪市中央区南船場 4-9-11
TE06-6251-7619

試験項目 ホルミシスマットを使用することで、生体ストレスの低減効果確認するため、使用前を対照として比較検証する。

試料 ホルミシスマット

試験条件 1) 試験日時 平成 25 年 9 月 4 日
2) 測定環境 室温 22℃ 湿度 58%
3) 測定機器 アミラーゼモニター<(株)ニプロ製>

試験方法 女性モデル (54 才) を被験者とし、ホルミシスマット使用前の生体のストレス度を唾液により測定した。
次に、ホルミシスマットを 10 日間就寝時のみに使用し、10 日後のストレス度を同様に測定した。なお、測定時刻は午後 1 時とした。

試験結果

ホルミシスマット使用によるストレス度測定値 (単位 : KIU/L)

	使用前	使用 10 日後	低減値
ホルミシスマット	61	36	25

考察 ホルミシスマットを 10 日間使用することで、生体のストレス度を示す KIU/L は 25 低減した。この要因が個人差によるものかどうかは分からないが、少なくともホルミシスマットを 10 日間使用した場合、生体の健康目安の一つであるストレスが低減することが示唆された。

なお、測定は各 5 回ずつ実施し、その平均値とした。

ちなみに、学会でのストレス度の目安は次の通りである。

0~30	KIU	ストレスなし
31~45	KIU	ややあり
46~60	KIU	あり
61~	KIU	大いにあり

KIU の K=Kg、I=国際単位、U=ユニット